

～ 自治体職員約200人に点検技術を養成 ～

市町村職員がメイン! 中部地整としても初めての取組

中部地方整備局では、メンテナンス技術者不足が指摘されている地方自治体への技術的支援の一環として、『道路構造物管理実務者研修』(橋梁初級 I)を1月26日より開始。

研修は『地方公共団体の職員の技術力育成のため、点検要領に基づく点検に必要な知識・技能等を取得すること』を目的。

研修期間は4日間で、1期～5期の5回に亘って開催。

【開催期間】

1期	1/26～1/29
2期	2/2～2/5
3期	2/9～2/13
4期	2/16～2/19
5期	2/23～2/26

【カリキュラム概要】

	カリキュラム
1日目	概論・点検一般(橋の構造の基本、点検法令体系等)
2日目	損傷・診断(鋼部材、コンクリート部材、下部構造等)
3日目	付属物(標識、照明施設等)、横断歩道橋の点検要領概論 土工構造物(シールド、大型カバー等)の点検要領概論
4日目	現地実習(橋梁、函渠)



道路部長の講義で5期に亘る研修がスタート!



マスコミ取材もありました



国総研室長の熱のこもった講義



熱心に受講する参加者



現地実習で説明する講師



クラックゲージによる捕捉



桁端部の損傷状況の確認



打音検査の様子(函渠)